

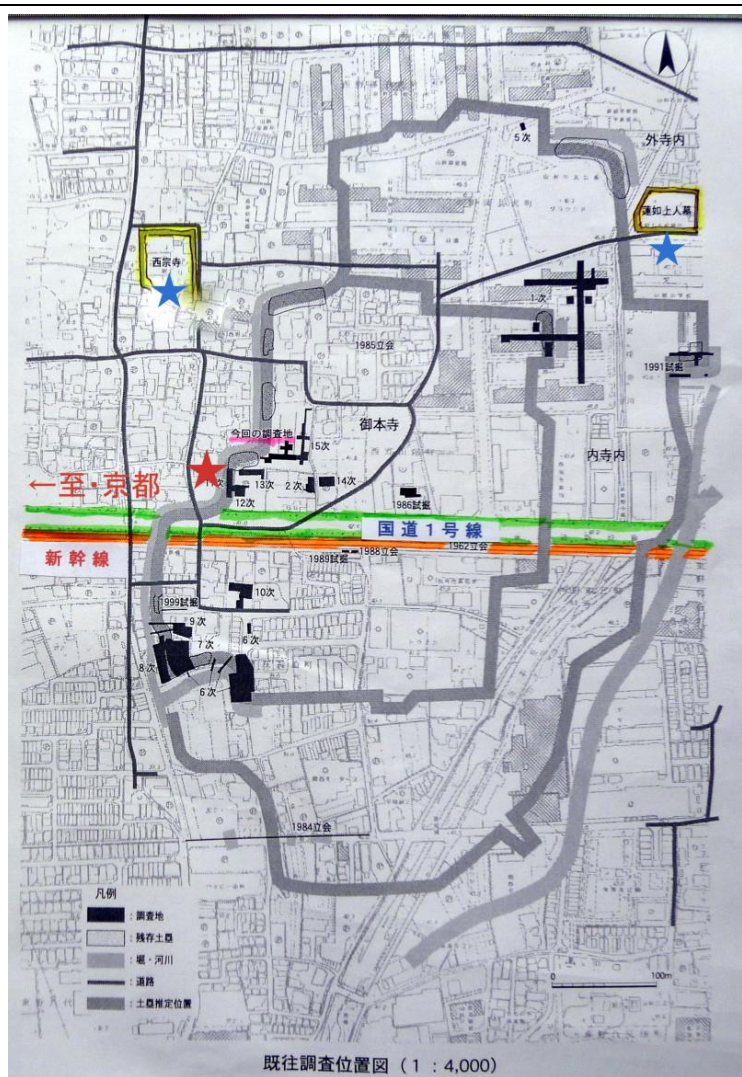
林徳寺だより 第三十一号

無量壽

平成29年1月1日
浄土真宗 本願寺派
林徳寺 発行
025 - 276 - 3456

浄土真宗物語 25

八代目の御門主、蓮如上人が文明十五（一四八三）年に建立された山科本願寺は、左の地図にあるように広大な境内地をもつ巨大な寺院でした。その広さは南北1キ、東西800メートルといわれています。



主要堂舎の建ち並ぶ「御本寺」、有力末寺の坊舎のある「内寺内」、門徒の居住区のある「外寺内」の三つの郭(くるわ)で構成されていました。

こうした壮大な規模と寺内町の経済的な発展にも支えられ、山科本願寺は当時の將軍家や有力武家をしのぐほど繁栄しましたが、そのために、本願寺勢力の拡大を恐れた時の権力者やライバルからの攻撃を受ける結果になってしまいました。

天文元（一五三二）年八月二三日に、細川晴元・六角定頼と京都の法華一揆の連合軍三万人以上が、

山科本願寺の四方を取り囲み、攻め込みました。包圍軍が時間稼ぎのために和睦を申し込み、本願寺側はそれを信じて油断していた隙を突かれたとも言われています。建立以来わずか五〇年ほどで、この広大な山科本願寺は灰となってしまったのです。

この当時の御門主は、一〇代目の証如上人でした。山科を追われた証如上人は、蓮如上人が隠居所として建てられた、大坂石山の石山御坊に移られ、ここを新たな本拠とされることになりました。



右の写真は、林徳寺の開基仏です。

林徳寺という寺を開基することの許可の印として、御門主様からいただくご本尊です。このご本尊の裏に、いただいた当時の御門主様の署名があるのですが、「証如」となっていますので、この山科本願寺を巡る戦の際に、林徳寺の先祖が奮戦した功績で、このご本尊を頂戴したと言い伝えられていることの証と言えます。

林徳寺の先祖は、室町時代に関東で戦に敗れて以来、何度も戦に敗れているのですが、ここでも奮戦むなしく敗れてしまったこととなります。

この後は、石山の地に舞台が移ります。 続く

護持会について

多くのお寺に「護持会」という組織があります。お寺によっては「護寺会」と書く場合もあるようです。

これは学校の後援会やPTAのような組織で、そのお寺のお檀家（浄土真宗では御門徒といいますが）を会員として、そのお寺やお寺が属する宗派の護持・維持管理に協力することを目的としています。

お檀家（あるいは御門徒）になるというのは、護持会の会員になることだと言っても良いかもしれません。

浄土真宗では、御門徒にとって、護持会の会員になったお寺を「お手次ぎ寺」と言います。浄土真宗では、亡くなられた方に「法名」をつけることは、「お手次ぎ寺」の「住職」にのみ許されていることです。本来は本山の御門主がおつけになるのですが、急なことで間に合わないのが、本山との間を取り次いで、住職が代わってつけさせていただくということなのです。

ですから、自分のお寺の御門徒でない方のお葬式を依頼された際は、本来のお手次ぎ寺のご住職にお願いして、法名をつけていただいた上でお葬式をさせていただきまします。私もこれまで、数回そういう経験があります。

林徳寺にも、もちろん「護持会」はあります。ただこれまで、きちんとした会則もなく、役員体制もすっかりとしたものではありませんでした。そのため長い間の慣習に従った運営が行われておりましたが、近年新たな御門徒が増えてきたことから、「護持会」の会費を振り込んでいただく座の開設が必要となってきました。

そこで昨年（世話方会議）役員会に当たるもので、新しく会則が定められ、しっかりとした役員体制も定まって、これをもって口座の開設も認めていただくことができました。これまで護持会費を納めていなくて、逆に不安に思っておられた御門徒もおられ

たことと思ひます。今年度からは、振込用紙をお送りいたしますので、年度内に、年会費をご納入くださいますよう、お願いいたします。なお年会費は8,000円と、昨年度の世話方会議（今年度からは役員会と称します）で正式に定められました。よろしくご協力のほど、お願いいたします。

併せて、林徳寺が所属する宗派の形を左に記載します。

浄土真宗 本願寺派（お西）
（本山・西本願寺 京都市）

新潟教区
（別院・本願寺新潟別院 長岡市）

新潟組
（組長所・円満寺 五泉市）

したがって皆様のお手次ぎ寺は、浄土真宗本願寺派、新潟教区、新潟組、林徳寺ということになります。